

かね七 完全菜食主義者に対応

粉末だし ビーガン認証



無添加こんぶ純だしを製造するかね七の本社・工場＝富山市水橋島等

食品メーカーのかね七(富山市水橋島等、石黒広一社長)が製造する粉末だし「無添加こんぶ純だし」と「しいたけ純だし」が、動物由来の素材を使用しないことを保証する「ビーガン認証」を受けた。同社がビーガン認証を取得するのは初めてで、欧米を中心に増加するビーガン(完全菜食主義者)への対応を強化する。こんぶ純だしは7月にフランスへ輸出しており、今後、海外での販売拡大につなげる。

(飯田章太郎)

かね七は1884年創業、1961年設立。商品数は、煮干しやだしパックなど500点を超え、多彩なラインアップからニーズに応じて製品提供できる強みを持つ。

「無添加こんぶ純だし」は、化学調味料を使わず、素材のうまみを生かした粉末だしで、お吸い物や湯豆腐などさまざまな料理に使える。今年3月にNPO法人「ベジプロジェクト」



ビーガン認証を受けたかね七の無添加こんぶ純だし

海外向けを強化

クトジャパン(東京)のビーガン認証を取得し、商社を通じてフランスのレストランに20箱輸出した。日本国内では30本(1本43g)入り702円で販売している。舟渡専務は「現地のシェフは新しい食材をメニューに取り入れることに意欲的」と話す。

海外では健康志向の高まりとともに、野菜中心の食生活を選ぶ消費者が増えている。市場調査会社の「グローバルインフォメーション」によると、ビーガン食品の世界市場規模は年々拡大しており、2022年は前年比12.6%増の401億ドル。27年には919億ドルまで成長する見込みだ。

かね七は近年、少子化に伴う国内の市場規模縮小に危機感を抱き、輸出を本格化している。16年には、豚肉やアルコールの摂取を禁じるイスラム教の戒律に従った製品を示す「ハラール認証」を取得。イスラム教徒の多い東南アジアを中心に輸出を増やし、23年6月期の輸出品売上高は前年比5%増の8千万円にまで伸ばした。

「こんぶ純だし」に加え、8月には「しいたけ純だし」のビーガン認証を取得。欧米向け輸出に力を入れ、輸出品の売上高1億円以上を目指す。舟渡専務は「欧米人好みのだしを提供できる開発力を武器に、海外展開していきたい」と話す。

富山の冬



県産ベニズワイガニ「志の紅ガニ」をはじめとする富山の食の魅力を発信する商談会が9月27日、富山・台北市内で行われ、県の観光関係者がPR活動を繰り広げた。

立山黒部アルペンルートが閉鎖する冬の観光振興に向けて貸切バス業の中興観光(富山市黒崎、佐々弘社長)が企画し、4回

シルバー人材活用経済団体に要望

県とセンター

県と県シルバー人材センター連合会(松島十三男会長)は2日、県内の経済体にセンターの積極的な用を呼びかけた。

富山市の県商工会議所合会では、舟根秀也県商労働部次長と松島会長が橋本常任理事事務局長に請書を手渡し、会員の年齢は70代が中心で世代交代が急務になっている現状説明。会員企業に対してセンターへの仕事の依頼と